

ハンス・キュンクの生涯 4

「教皇の不可謬性を問う」

教皇の不可謬性への「疑念」ないしは、「拒否」を、キリスト教世界の真っ只中で、具体的に自らの「われ信ず（クレドー）」で表明したのが、ハンス・キュンク。そのハンス・キュンクの「われ信ず（クレドー）」は、以下のようになります。

イエス・キリストのあとに従いながら
ひとは今日の世界で
真に人間らしく生きて、行動して、苦しんで、死んでいくことができる
幸福な時も、不幸な時も、生きる時も、死ぬ時も、神に抱かれて、
人々をおおいに助けながら。

ふくしま よう
講 師：福嶋 揚 さん



日 時：2026年3月6日(金) 午後6時～8時

場 所：西宮公同教会 集会室

〒662-0834 西宮市南昭和町10-22
0798-67-4691
阪急西宮北口駅より 徒歩3分

参加費：500円



福嶋 揚

1968年生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科（倫理学専攻）博士課程修了。チュービンゲン大学福音主義神学部を経て、ハイデルベルク大学神学部にて神学博士号（Dr.Theol.）取得。現在、東京大学研究員。著書は『カール・バルト—破局のなかの希望』（ぶねうま舎）、『カール・バルト—未来学としての神学』（日本キリスト教団出版局）など。訳書はユルゲン・モルトマン『希望の倫理』など。

権力者が「自分は間違ひを犯すことはない」と言い張って、人々がそれを受け入れてしまうことほど、恐ろしいことはありません。太平洋戦争の時の日本を思い出してみればわかります。そのような独裁的組織は必ずや戦争や破滅に向かうことでしょう。今回は、神学者キュンクがローマ教皇の「不可謬性」の神話を止めようとし、たった一人で立ち向かった闘いを見てゆきます。

(福嶋 揚)

主催：関西神学塾
協力：障害児・者情報センター
問合せ：西宮公同教会
西宮市南昭和町 10-22
TEL：0798-67-4691
MAIL：koudou@gamma.ocn.ne.jp